
校長メッセージ ～合言葉は「子どもに軸足！」～

東長良中学校 丹羽

硬直した心としなやかな心

子どものやる気を高めるためにどのような働きかけをすればいいだろう？これは子どもを育てる大人にとって永遠の課題です。ひとつの切り口として、「ブラックエンジン」と「ホワイトエンジン」という考え方があります。子どもに関わるときの言葉の選び方のヒントになるのではないのでしょうか。

人のモチベーションを生み出す源には、全く違う2つのエンジンがあると言われていています。それが「ブラックエンジン」と「ホワイトエンジン」です。

まず「ブラックエンジン」とは、恐れやプレッシャーなどによる動機のことです。「このままでは単位が取れなくて進級できなくなる」、「失敗したらまわりにどう思われるか考えると恐ろしい」などといったものからくる動機です。この場合、常に「何か不足するのではないかという不安」に直面していますから、ストレスを抱えながらもずっと盲目的に走り続けることになりがちです。また、自分を守ることに必死ですから、そのエネルギーが外に向かっていき攻撃的になったり、他人を蹴落としたりしてでも自分の利益を得ようという利己的な考え方にも陥りがちです。例えば、いわゆる「ブラック企業」と言われているような会社では、従業員の「ブラックエンジン」がフル稼働している姿が容易に想像できますし、現在では多くの組織で、または家庭や学校でも、この「ブラックエンジン」が稼働せざるを得ない場面は多いのかも知れません。モチベーションの源としては少し息苦しい感じですが、イメージとしては全身に力を入れて踏ん張って一生懸命走っているような感じです。ずっとこれを続けていると「ガス欠」になって動けなくなってしまうこともあります。

一方、「ホワイトエンジン」とは、感謝や貢献、信頼からくる動機のことです。「お世話になったあの人のために頑張ろう」や「純粋に社会や誰かの役に立ちたい」などといったものからくる動機です。この場合は、自分自身や社会や他人のことをポジティブにとらえていて、「他人を満たすことで自分自身も満たされる」という思いの元で行動しますから、互いに満たし合うプラスの連鎖が起きていきます。良い意味での「相互依存」「助け合い」「共生」という感じです。この辺りは、限られたものを奪い合うような「ブラックエンジン」とだいぶ違います。ディズニーランドのような会社では「ホワイトエンジン」がいたるところで稼働しているイメージがあります。簡単ではありませんが、ビジネスでもスポーツの世界でも、本当に強い組織やチームはこうした「ホワイトエンジン」がベースになっているものです。最近は社会貢献やボランティアなども盛んになってきていますが、それらも基本的には「ホワイトエンジン」から来るモチベーションです。イメージとしては、程よくリラックスしていて気持ち良くしなやかな感じです。

人のモチベーションは、これら2つの動機をもとに生み出されると言われていますが、こう書くと、「ホワイトエンジン」は良くて、「ブラックエンジン」は悪いもののように感じるかもしれませんが、必ずしもどちらが良いというわけではありません。「ブラックエンジン」は爆発的なパワーも持っていることがありますし、場合によってはこちらの力が必要になってきます。たとえば、人間ですから人生においてピンチや苦境に立たされることは何度もあるでしょう。そんな時に力を発揮してくれるのは「ブラックエンジン」です。しかし、ずっと「ブラックエンジン」だけを作動させ続けていると色々なところに悪影響が出てきます。ずっとカんでいれば自分自身も疲れ切ってしまうし、前述したように「盲目的で利己的」にもなりやすいですから、人のことを顧みずに「もっともっと」とどんどん突き進んでしまうこともあります。人間は社会的な生き物ですから、結局のところ一人では持続的に成功することはおろか、本当の幸せを感じることはできないものです。

「ホワイトエンジン」は誰にでも搭載されていて、使っていればうまく動き始めます。「ブラックエンジン」を動かすために必要なガソリンが「恐れや不安」であるとするなら、「ホワイトエンジン」を動かすために必要なガソリンは「感謝や信頼」です。バランスよく注入したいものです。